

京都の政党システムと地方選挙

－ 2019年統一地方選から2020年京都市長選へ－

芦立 秀朗

Kyoto's Party System and Its Local Elections from April 2019 to February 2020

Hideaki ASHITATE

Abstract

Depending on where they live, voters can see various party systems in their local legislative bodies, which both influence and are influenced by national politics. In Kyoto, three consecutive elections were held. At the local elections in April 2019, voters elected members for the city legislative and prefectural bodies; in February 2020, the mayoral elections took place. Between these events, in July 2019, the national elections were conducted for the Upper House. According to opinion surveys conducted by media and Kyoto City, two changes can be observed. First is the widening of the behavioral gap between supporters of the Democratic Party for the People and those of the Constitutional Democratic Party of Japan despite the two parties originally belonging to one larger party: the Democratic Party. Second is the increasingly similar voting behaviors of the supporters of the Democratic Party for the People, *Kyōto-tō* (the Kyoto Party), and *Kyoto Ishin no Kai* (a local branch of the national party, the Japan Innovation Party). These two changes can revitalize the party system in Kyoto, which may affect the behaviors of national politicians elected from its districts.

はじめに

アメリカ政治研究やフランス政治研究といった表現は政治学の世界で聞き慣れたものであるけれども、日本国内の個々の地域における政治研究は、東京に関するものを除けばあまり耳慣れない。しかし、当然ながら、日本の地域が一様でないことは明らかである。真淵（2015）は

都市の風格について、規模に由来する「規模の風格」と、小国が大国とやせ我慢をしながら渡り合っていく時の様な「心意気の風格」の二つの軸から 314 の都市を分類・分析する。「規模の風格」を構成する要素の一つとして、大学（四年制大学）の部局数が含まれている。大学の存在は風格のみならず地方における政党システムとも関係している。

例えば、京都において共産党の党勢が継続している背景として、「京都にある大学の存在もあり、若い大学生からの人材供給が継続して行われてきたこと」を鶴谷（2020, 149）は挙げている。教育・学問の役割について、久保谷（2016, 183）は、「東京に対するコンプレックスを感じつつ、教育と学問を尊重し『他に負けじ』と新知識の導入を積極的にはかろうとする市民的伝統」が京都における共産党の強さの背景にあるとする。

京都の政党システムにおいて共産党が占める位置は他の都市と大きく異なる。しかしながら、どこの地域においても、地方の政治が国政を契機に変化を遂げることがあれば、逆に国政に影響を及ぼすこともある。地方政治と国政の相互関係についての一般化を試みるためには、逸脱事例と思われる政党システムを有する京都市を含めて、各地域についての詳述、白鳥編著（2016, 346）の言葉を借りるならば『現代日本政治風土記』の執筆を通じた相違点の発見が重要となってくる¹。

そこで本稿では京都市に焦点を当てて、地方の政党システムや地方選挙の結果がどの様に変化してきて、国政とどの様に連関しているかを非自民非共産勢力に焦点を絞りながら分析する。なお、地方選挙の内、京都府議選には当然京都市外の選挙区も存在するが、京都市内の選挙区に絞って議論する。

1. 京都の政党システムと地方選挙

2019 年統一地方選前半戦の投開票翌日 4 月 8 日の『朝日新聞』京都版は、京都府議選について「自民 28 人全員当選 共産 1 減 立・国・維は増」²、京都市議選について「共産第 1 党届かず 自民との差 3 に開く」という見出しで結果を報じている。非自民非共産勢力への言及はあるものの、自民党と共産党の対決として両選挙を捉えていることが分かる。「民主党が京都から国政に送り出している議員たちが、京都市議会の勢力図に影響を与えるのならば、京都市政治における三極目という議論をしなければならぬ状況が生じるのかも知れない」（吉田・木村・佐藤 2007, 51）と解説されてから 10 年以上になる。細かな変化が見られるのは確かである。2010 年代に大阪や名古屋と同様に地域政党が京都でも出現し、一定の支持を得るようになった（白鳥編著 2013）。地域政党京都党（以下、「京都党」）が初挑戦で 4 議席を獲得した 2011 年京都市議選では、みんなの党も 1 議席を獲得する一方で、民主党が議席を減らし、非自民非共産勢力の多極化・細分化を予期させた。

しかしながら、国政レベルでは、京都府の小選挙区を地盤とする国民民主党・立憲民主党の衆議院議員が比例復活を含めて 3 人、京都府選挙区選出の立憲民主党の参議院議員が 1 人存在して共産党を上回っていることを考えると³、地方レベルの政党システムでは劇的な変化は見

られていないと言える。

京都市会選挙で共産党が自民党との第一党争いをしてきたことに加えて、京都市長選挙でも共産党が推薦する候補が自民党等の推薦する候補と激しい選挙戦を展開してきた。共産党が京都市政の野党となった1985年市長選以来、三人以上の有力な候補者が争う市長選挙が何度かあったが、常に次点は共産党の推薦する候補であった⁴。共産党が推薦する候補が相乗り候補に肉薄する大接戦となった市長選は、比較的最近でも見られた。

病気により任期途中で辞任した田邊朋之の後任を選ぶ1996年2月の市長選では、住宅金融専門会社（住専）処理への税金投入の是非という国政の問題が争点と言われ、国政与党が批判にさらされた。この時の選挙では、新人の榎本頼兼が222,579票で、218,487票を獲得した共産党推薦の井上吉郎を僅差で押さえて初当選している。当選した榎本候補は住専問題の争点化を避けてきたものの、共産党の推薦する井上候補は正面から批判したので、住専問題への態度が投票先に大きく影響を及ぼした。そもそも79%の有権者が処理策への反対の立場で圧倒的であったが、井上候補に投票した有権者に限定すると90%もが反対派であり、榎本候補に投票した有権者の64%が反対であることと差があった⁵。

鶴谷（2020, 130）はこの選挙に異なる意味を見出している。衆議院に小選挙区制度が導入され、「従来の自民党国会議員と地方議員との連携の象徴であった『系列関係』が、国会議員の地方選挙の関与の低下により、以前より関係が弱くなっていった」とする。鶴谷（2020, 157）は「新しい市長が登場する過程において、政党の市議会議員の関与が高まっている」とする。

2000年代以降の京都市長選挙では、京都市議出身の候補も見られるようになった。2020年と同じく前京都市議の村山祥栄が立候補して事実上の三つ巴となった2008年の市長選では共産党推薦の中村和雄が猛追し157,521票を獲得し、当選した門川大作の158,472票とわずか951票差となった。共産党の強さとその結果としてのその他の政党との対立構造は京都の地方選挙を特徴付けてきたと言える。2020年の市長選挙でも共産党が推薦する福山和人が161,618票を獲得し⁶、特に左京区では22,558票で現職の門川大作の19,159票を上回って一位となっている⁷。共産党は支持層の歩留まり率も高く、2019年参院選での95%には及ばないものの⁸、2020年京都市長選でも87%という数値を示している⁹。

京都の政党システムは国政レベルにも相関してきたし、地方選挙の結果は国政選挙に影響を及ぼしてきた。例えば、2016年4月の衆院補選では北海道5区では野党候補統一が成功したが、京都3区では共産党が独自候補を擁立しないという形で民進党候補を応援するに留まった。また、2019年統一地方選の後に、国民民主党が同年参院選京都府選挙区の公認候補を一方的に下し、立憲民主党の新人を支援することになったことも、象徴的である。

次章以降では2019年4月に京都で行われた地方選挙の京都府議会議員選挙（京都市内の選挙区）と京都市議会議員選挙、2020年京都市長選に焦点を当てて、非自民非共産つまり「第三極」の消長に注目しながら分析を行う。なお、公明党については府議選・市議選で第三党となっているものの、強固な基盤を有し歩留まりも高いため、変化を論じる本稿では、統一地方選における公明党の勢力の推移などについて割愛する。

2. 2019 年統一地方選

2.1. 国民民主党と立憲民主党の「すみ分け」と無投票選挙区の増加

2019 年の統一地方選は旧民主党・民進党が国民民主党と立憲民主党に分かれてから初めての統一地方選であった。選挙を前に「府連会長を務める立憲の福山哲郎幹事長と国民の前原誠司元外相が話し合い、各選挙区で共倒れを防ぐための調整をし」¹⁰ 相手方の現職議員がいる所には原則的に新人候補を立てないこととした。その結果、府議選（定数 60）では京都 1 区内の京都市中京区選挙区（定数 3）で立憲民主党の現職が、京都 2 区内の京都市左京区選挙区（定数 3）で国民民主党の現職が、無投票当選を果たしている。両選挙区とも他の当選者は自民党候補と、共産党候補であった（表 1）。府議選で他に無投票となった選挙区はいずれも京都 1 区に含まれる上京区選挙区（定数 2）、下京区選挙区（定数 2）、南区選挙区（定数 3）であるが、立憲民主党も国民民主党も現職議員が存在せず、また新人候補者の擁立もしていない。

2019 年の統一地方選における無投票当選の多さは他の道府県でも指摘されたが、京都の場合は前回が南丹市・船井郡の 1 選挙区 1 人のみであり、今回京都市内に集中したのが特徴であった。国民民主党と立憲民主党の「すみ分け」の影響もさることながら、2015 年に候補者を立てた京都党や京都維新の会（日本維新の会）が候補者擁立を見送ったことも大きい。府会議員選挙の場合、定数（M）は最大の京都市伏見区選挙区で 6 であり、単純計算で言えば当選に必要なのは投票総数の $1/(M+1) = 1/(6+1) \approx 14\%$ となる（建林・曾我・待鳥 2008, 75）。無所属時代から知名度が高く京都市長選への立候補経験もある、京都党代表の村山祥栄京都市会議員（左京区選出）ですら、今回の相対得票率は 13.1%であったから、府議選のハードルがいかに高いかが分かる。

2019 年に無投票となった京都市左京区選挙区や京都市中京区選挙区で、2015 年には京都党は候補者を立てていたが、今回はこれらの二選挙区を含めて全ての選挙区で候補擁立を見送った。また京都党に加えて、維新が候補者擁立を見送ったことも、無投票当選の増加の要因である。維新が公認候補を立てたのは 2015 年の府内 11 選挙区から 2019 年 3 選挙区へ激減した。2015 年に公認候補者がいた京都市下京区選挙区、京都市南区選挙区には 2019 年には候補者が擁立されずに、無投票の選挙区となっている。

府議選に比べて各選挙区の定数の多い京都市議選では、無投票こそなかったものの、東山区選挙区（定数 2）、西京区選挙区（定数 6）で国民民主党の現職が立候補し、立憲民主党は候補を擁立しなかった。両現職とも当選を果たしている。また、北区選挙区（定数 6）、下京区選挙区（定数 4）では立憲民主党の元職のみが立候補し、国民民主党の候補はいなかった。北区の候補者が市会への復活を果たしている。

表 1 2019 年府議会議員選挙における無投票選挙区

| 選挙区（衆議院小選挙区） | 2015 年当選者（得票順）。括弧内は落選者 | 2019 年 |
|----------------|------------------------|----------|
| 京都市上京区（京都 1 区） | 自・共（民） | 自・共 |
| 京都市中京区（京都 1 区） | 自・共・民（京・無） | 自・共・立憲民主 |
| 京都市下京区（京都 1 区） | 共・自・公（維） | 共・自・公 |
| 京都市南区（京都 1 区） | 自・共（維） | 自・共 |
| 京都市左京区（京都 2 区） | 共・自・民（京） | 共・自・国民民主 |

京：京都党 維：京都維新の会（日本維新の会）

出典：『朝日新聞』より筆者作成。

2.2. 国民民主党と立憲民主党の競合による「共倒れ」

2.2.1. 京都府議選京都市伏見区選挙区の事例から

相手方の現職がいる所には原則として新人を立てないという国民民主党・立憲民主党の方針は、裏を返せば新人候補同士は競合し得るということである。両党候補者の競合区についての事例分析からは両党間の溝（特に候補者陣営間の溝）を読み取ることができる。

京都府議選の京都市西京区選挙区（定数 3）では、2019 年選挙では立憲民主党新人と国民民主党が推薦した無所属新人が立候補し、共倒れしている（前者が次点）。二人の得票を足しても最下位当選の維新新人に及んでいなかった¹¹。また、京都府議選の京都市伏見区選挙区（定数 6）では、「府議選で唯一、両党の公認候補がぶつかる構図に [なった]。定数が最多の同選挙区では互いに譲らず、『伏見だけが互いにドンパチ争うことになった』（国民府連幹部）のだ。

両党の候補はともに伏見区出身 [であり、] 国民の候補は旧民主、民進時代に党スタッフとして、立憲の候補は福山氏の秘書として一緒に仕事をし、酒を酌み交わした仲だ¹²。しかしながら、いまは別々の党となったため、「陣営からは『あちらのスタッフと街で会っても、あいさつもしなくなった』との声も上がる [し、] 候補者の一人は『選挙は人を変える。互いに当選しても、もう仲良くはなれない』と語¹³ったとのことである。

「連合京都幹部は『統一地方選の後には一本化の議論が再び本格化する。府議選の結果は参院選に大きな影響を与える』とみる。参院選に向け、両党は議席を得て党勢に弾みをつけたい考えだが、長年の支援者からは『政策も大差ないかつての仲間同士が、いつまでいがみ合っているのか』と嘆く声も出ている。」と『朝日新聞』は分析する¹⁴。

「『参院選を有利に展開するためにも、伏見で負けるわけにはいかない』と立憲府連幹部は強調¹⁵したが、最終的に次点の国民民主党新人と次次点の立憲民主党新人の票数を足せばトップ当選した候補に並ぶくらいの得票をしているものの、共倒れをし、旧民主党・民進党系の当選者は出ていない。

2.2.2. 京都市議選左京区選挙区の事例から

また、市議選左京区選挙区（定数 8）では国民民主党の現職が二人いるにもかかわらず、立憲民主党の新人候補・島内研が立ち、三人全員が落選している。島内は 2007 年より前原誠司

衆議院議員事務所で秘書として勤務し、2011年京都府会議員選挙・京都市左京区選挙区（当時は定数4）に民主党公認候補として立候補し、初当選を果たした。島内のキャリアに大きな変化をもたらしたのは、2015年府会議員選挙を前に選挙区定数が見直され、左京区選挙区が一人減、宇治市・久世郡選挙区が一人増となったことであった。左京区選挙区では1994年補選以来、当選を重ねている民主党現職の北岡ちはるが存在したため、2015年府会議員選挙では共倒れを避けるべく「お世話になった代議士や民主党京都という組織のため、現職でありながら立候補をしないという苦渋の決断を」したとの本人の説明がある¹⁶。ここでの「お世話になった代議士」とは明言はしていないものの前原であることは明らかである。

果たして2015年の府会議員選挙では共産党現職、自民党現職に続き、北岡は12977票を得て3位で当選している。次点の京都党新人候補が9657票であり、民主党が候補を一人に絞らなかつたら共倒れしていた可能性が高い（芦立2016, 146）。実際に、唯一、複数の民主党候補が立った京都市伏見区選挙区（定数6）では次点（8107票）、次々点（6747票）で候補二人が共に落選した。最下位に滑り込んだ維新の新人が獲得したのが8509票であり、複数候補擁立により議席を失った事例である。

その島内は2018年5月民進党の希望の党との合流を契機に無所属となったが、立憲民主党公認候補として2019年の市会選挙に臨むこととなった。国民民主党現職の隠塚も前原事務所で秘書を務めた経歴を有し、同門対決となった訳である。

結果は表2の通りであり、旧・民主党の3人から1人も当選者が出なかつたのも衝撃的であるが、2015年の二候補の得票合計8980に対して、2019年は9192と2.4%程度の微増に留まったことは関係者の認識を改めさせた様である。トップ当選者も2位当選も得票を微減させているので旧・民主党候補三人は健闘したと言えなくもないが、「連合京都幹部も『どちらの党にも風はまったく吹いていない。このままでは参院選の結果は明らか』と危機感を強めた」¹⁷。

2019年統一地方選では全国的には立憲民主党の議員の増加と国民民主党の議員の減少が指摘された。例えば、道府県議選で立憲民主党が118議席（改選前87議席）に対して、国民民主党は改選前の142議席を83議席に減らした¹⁸。少なくとも京都では両党が独自候補を立てて競合したとしても、そのことが潜在的な票の掘り起こしにはつながらないことが明らかとなったのである。2017年の総選挙後に希望の党と立憲民主党を足して旧民主党・民進党系の衆議院議員が増えたことを強調した前原¹⁹にとって、転換点となったのは想像に難くない。

2.3. 旧民主党・民進党支持層の投票行動：京都市選挙管理委員会の調査から

次に質的側面を離れて量的側面から、旧民主党・民進党支持層の投票行動について分析する。まず旧民主党・民進党の歩留まりの変化について見てみると、民主党が全11選挙区に候補者を擁立した2011年の市議選では、投票を行った民主党支持の回答者72名中44名（61.1%）が民主党候補に投票している（京都市選挙管理委員会編2012, 100-101）²⁰。2015年の市議選では民主党は中京区（定数5）、下京区（定数4）以外の9選挙区で公認候補を立てているが、民主党候補に投票したという民主党支持の回答者は37名中20名（54.1%）に留まった（京都市選

表2 市議選左京区選挙区（定数8）における旧民主党・民進党系の候補の得票の変化（上位当選者との比較の中で）

| | | 2015年市議選 | 2019年市議選 |
|-------|------------|------------|-------------|
| 1位当選* | 村山祥栄（京都） | 7130 | 7093 |
| 2位当選* | 加藤あい（共産） | 5596 | 5391 |
| | 隠塚功（国民民主） | 5155（4位当選） | 3301（9位落選） |
| | 鈴木正穂（国民民主） | 3825（8位当選） | 2610（13位落選） |
| | 島内研（立憲民主） | － | 3281（10位落選） |

*：2015年と2019年で上位二人は変わっていない。

出典：『朝日新聞』より筆者作成。

選挙管理委員会編 2016, 139)²¹。2019年の京都市議選における民主系について見ると、国民民主党支持層で投票を行ったという回答者が1名であるので、歩留まりの100%は有意な結果とは言えないが、立憲民主党支持の回答者30名の歩留まりが60.0%というのは2011年の民主党と同じレベルである（京都市選挙管理委員会編 2020, 141）。

では、2019年市議選における立憲民主党の支持層と国民民主党の支持層の投票行動にどのくらい差が見られたのであろうか。京都市選挙管理委員会の調査では、2019年の京都市議選において、立憲民主党支持の回答者30名の内、立憲民主党の候補に投票した者が18名（60.0%）、国民民主党の候補に投票した者が1名（3.3%）であった。先述の通り国民民主党支持層で投票を行ったという回答者が1名であり、当該回答者は国民民主党候補に投票したと答えている。「すみ分け」を行っている選挙区もあったため、この調査のみからは二つの政党の政党支持層の投票行動の違いは分からないが、同年夏に行われた参院選で両党の差が顕著に表れ、その差異は2020年2月の京都市長選挙でも見られることになる。

3. 2019年参院選：参院選候補者の一本化と立憲民主党と国民民主党の選好の乖離²²

府議選京都市伏見区選挙区で見られたような、国民民主党と立憲民主党の対立といった、非自民非共産の新人同士の競合関係は2019年夏の参議院選挙の行方を占う上でも、重要であった。京都府選挙区では自民党の西田昌司と共産党の倉林明子が再選を狙っていた。これに対して、国民民主党が前原誠司衆議院議員の元秘書・斎藤アレックスを、立憲民主党がLGBTコンサルタントの増原裕子を新人候補として擁立予定だったからである。旧民主党・民進党系では、2016年に当選した福山哲郎参議院議員が2017年の衆院選を前に立憲民主党に移ったため、国民民主党としては次は自分たちが候補者・当選者を出す番であるという思いがあった様である。そこで、国民民主党は先に公認候補を決定したが、立憲民主党からも公認候補が出たために、2019年1月以降『共倒れ』への危機感から広岡和晃・連合京都会長が両党に一本化協議を急ぐように繰り返し要請してきた²³。最終的に4月27日に急きょ開かれた党の記者会見で

国民民主党が斎藤を一方的に下ろすことでひとまず決着した。国民民主党の府連関係者によると、斎藤の擁立断念は前原の主導で進められたとのことである²⁴。

候補者の一本化は表3に見られる様な2013年参院選における非自民非共産の乱立による共産党候補の当選という歴史を踏まえてのことであった²⁵。但し、「国民府連の地方議員も『斎藤氏を最後まで推す声も根強かった。誰もが気持ち良く増原氏を応援できるとは思えない』と話」²⁶しており、両党が一丸となり選挙戦を戦えるとは限らない状況であった。また、落下傘候補である増原がどこまで浸透するかも未知数であり、「立憲府連の中堅の一人も『増原は政治家としては無名の新顔。議席が得られなければ目も当てられない』と懸念」²⁷していた。最終的に増原は国民民主党の「推薦」でなく「支持」を得て選挙戦を戦うこととなった。選挙公報の応援者一覧では党代表の枝野幸男衆議院議員や府選出の福山哲郎参議院議員に加えて、西脇隆俊京都府知事や門川大作京都市長の名が見られたものの、前原誠司の名前はなかった。

結果的には増原は次点に終わることとなった(表4)。増原を支持した国民民主党の支持層に関しては、支持層の内、増原に投票したのは61%に留まり、21%が自民党の西田に票を入れており、歩留まりが低かった²⁸。増原を公認した立憲民主党の歩留まりは81%であるから、それに対して20ポイントも低かったということになる²⁹。

表3 2013年参院選京都府選挙区の選挙結果

| | 氏名 | 得票 | 年齢 | 党派 | 推薦 | 新旧 | 当選回数 |
|---|------|---------|----|-----|----|----|------|
| 当 | 西田昌司 | 390,577 | 54 | 自民 | 公明 | 現 | 2 |
| 当 | 倉林明子 | 219,273 | 52 | 共産 | | 新 | 1 |
| | 北神圭朗 | 201,297 | 46 | 民主 | | 新 | |
| | 山内成介 | 164,825 | 47 | 維新 | | 新 | |
| | 木下陽子 | 71,983 | 33 | みんな | | 新 | |
| | 曾我周作 | 6,119 | 34 | 諸派 | | 新 | |
| | 新藤伸夫 | 2,906 | 64 | 諸派 | | 新 | |

出典：総務省ホームページの選挙関連資料・『朝日新聞』より、筆者作成。

表4 2019年参院選京都府選挙区の選挙結果

| | 氏名 | 得票 | 年齢 | 党派* | 推薦・支持 | 新旧 | 当選回数 |
|---|------|---------|----|------|-------|----|------|
| 当 | 西田昌司 | 421,731 | 60 | 自民 | 公明 | 現 | 3 |
| 当 | 倉林明子 | 246,436 | 58 | 共産 | | 現 | 2 |
| | 増原裕子 | 232,354 | 41 | 立憲民主 | 国民民主 | 新 | |
| | 山田彰久 | 37,353 | 38 | 諸派 | | 新 | |
| | 三上隆 | 16,057 | 88 | 諸派 | | 新 | |

* 「諸派」の山田は「NHKから国民を守る党」、三上は「オリーブの木」からの立候補。

出典：総務省ホームページの選挙関連資料・『朝日新聞』より、筆者作成。

4. 2020年京都市長選挙

4.1. 有権者の投票行動から見える国民民主党と立憲民主党の溝

2019年の統一選で見られ、参院選の結果に影響を及ぼした、京都における国民民主党と立憲民主党の溝は、その後の地方選の結果にも見て取ることができる。2020年京都市長選では現職の門川候補に国民民主党府連、立憲民主党府連が共に推薦を出した。朝日新聞社が2月2日の投票日当日に実施した世論調査によると立憲民主党支持層の内、門川候補に投票した有権者は23%に留まり、共産党・れいわ新選組の推薦を受けた福山候補に投票した有権者（49%）の半分に満たないのみならず、村山候補に投票した有権者（28%）をも下回っている³⁰。毎日新聞社の出口調査の結果も同様の傾向を示している。立憲民主党支持層の内、門川候補に投票したのは24.4%と最も少なく、45.4%が福山候補に、29.4%が村山候補に投票している³¹。この様に、立憲民主党の支持層と共産党の近さが印象的である³²。

他方で、国民民主党の支持層は現職への投票意欲が高くない点では立憲民主党の支持層と共通であるが³³、京都党の市議であった村山候補への支持が厚い。国民民主党支持層の内、門川候補に投票したのは34.8%と、福山候補へ投票した22.7%は上回ったものの、最も多いのは村山候補に投票した37.9%であった³⁴。この様に、国民民主党の支持層は非自民非共産を好み、共産党との距離が比較的遠いのが、立憲民主党との違いである。

もともと様々な政治勢力が結集した政党である旧民主党・民進党であるが、2019年参院選で顕著となった内部の選好の違いが2020年京都市長選でも引き続き見られたと言える。さらに付け加えるならば、少なくとも2020年京都市長選を見る限りにおいて、国民民主党の支持層と維新の支持層の投票行動には類似点が見られるのである。

4.2. 京都維新の会と京都党

京都の政党システムを考えた場合に興味深いのは、隣接する大阪や兵庫と異なり維新の勢力が地方政治で伸びなかった点である。2019年の大阪府議選で維新は2015年獲得の42議席から51議席に躍進したが、それと対照的に大阪以外の関西の府県では前回の合計17議席に対して16議席と微減させており、2019年の京都府議選でも当選者数は2015年と同じく2名であった³⁵。2019年参院選でも隣接する大阪府選挙区とは対照的に維新の候補擁立はなかった。その背景には、京都党の存在がありそうである。実際に国政レベルで維新支持を標榜する有権者が地方選挙では京都党の候補者に票を投じているのである。

京都市選挙管理委員会の調査では2015年統一地方選の京都市議選では「維新の党支持者38人の内、8人が京都党の市議候補に票を投じている。これは維新の党支持者の21.1%に当たる。維新の党の候補者に投票した維新の党支持者は10人（26.3%）であった。京都維新の会の候補者は単独推薦を含めて全11選挙区中半分の6選挙区6人に過ぎないことを踏まえると、京都維新の会の候補者がいない選挙区で維新の党の支持者が京都党に投票した可能性がある」（芦立2020, 307）³⁶。

2016年の京都市長選を前に京都維新の会は京都党代表であった村山祥栄立候補の動きに乗ろうとしていたが、最終的には村山は立候補を見送った。維新の思惑としては市長選で「政策に共通点が多い京都党の擁立の動きに相乗り」することで、2016年夏の参院選で維新が立てる候補を京都党が支援することを期待してのことと言われていた³⁷。

2020年の京都市長選に際しては、2019年の時点で京都維新の会が独自候補の擁立を模索したものの擁立がならなかったが、維新の支持層は市議選と同様に京都党に投票した様である。先述の京都新聞社の情勢分析でも村山候補は「維新支持層に一定浸透している」と評価されている。朝日新聞社の出口調査からも維新支持層の46%もが村山候補に投票したことが明らかとされている³⁸。毎日新聞社の出口調査によると維新支持層の半数以上である54.2%が村山候補に票を投じている³⁹。

統一地方選に関する京都市選挙管理委員会による調査を、京都党の側から見ると、京都党の市議候補に投票したという回答者が2011年に22名、2015年に32名、2019年に19名いる（表5参照）。この調査ではまず支持政党を尋ね（F5）、8～11の政党と「支持政党なし」「わからない」から選択させている⁴⁰。「支持政党なし」「わからない」と答えた回答者に付問2で「強いて言えば、どの政党がお好きですか」と尋ねている。最初の問いと同じ8～11の政党の他、「その他の政党（ ）」、「好きな政党なし」、「わからない」が選択肢である。8～11の政党の中に京都党は含まれていないので、普段の支持政党が京都党であると回答したい有権者はF5か付問2で「その他の政党」を選び括弧内に「京都党」と書くことになる。興味深いことに京都党の候補に票を投じた有権者の中に普段京都党を支持していると回答している者は結党以来一人もいない。国政選挙と地方選挙での投票行動にギャップが存在している。この様に維新と「政策に共通点が多い」とされる地域政党が存在し、一定程度の勢力を京都市会で有していることが、京都府における維新の伸び悩みと関連しそうである⁴¹。

本章で検証した通り、国民民主党、維新、京都党の支持層が地方選挙で類似した投票を行っ

表5 京都党の市議候補者に投票した回答者の普段の支持政党（括弧内は実数）

| | 自民 | 維新 | 共産 | 立民* | その他 | 好きな政党なし | 分からない | 支持政党の回答無し |
|-------------|---------------|--------------|-------------|--------------|------------------|--------------|--------------|--------------|
| 11年 (22) | 22.7% (5) | —** | 9.1% (2) | 27.3% (6) | 13.6% (3) *** | 22.7% (5) | 4.5% (1) | 0% (0) |
| 15年 (32) | 34.4% (11) | 25.0% (8) | 3.1% (1) | 12.5% (4) | 0% (0) | 18.8% (6) | 6.25% (2) | 0% (0) |
| 19年 (19) | 36.8% (7) | 10.5% (2) | 5.3% (1) | 10.5% (2) | 0% (0) | 10.5% (2) | 15.8% (3) | 10.5% (2) |

*：2015年以前については、「民主党」。2019年に京都党に投票した国民民主党支持の回答者は存在しなかった。

**：支持政党を尋ねる欄に維新の記載がなかった。

***：「たちあがれ日本」「新党改革」「新党日本」が一人ずつであった。これらは質問票に名前が明記されており、厳密には質問票上の「その他」ではないが便宜上まとめた。

出典：京都市選挙管理委員会編（2012, 100-101）、京都市選挙管理委員会編（2016, 139-140）および京都市選挙管理委員会編（2020, 141）より、筆者作成。

ているが、こうしたことが京都市における「第三極」につながるのか、あるいは党幹部の国会議員が存在感を放つ立憲民主党が地方にも変化をもたらすのか。京都の政党システムは不確定要素が多い。

まとめ

本稿では京都の政党システムと地方選挙の関係、さらにはそれらと国政の連関について、主に2019年から2020年の地方選挙に焦点を絞って検証してきた。その結果、以下の二点が明らかとなった。

第一に、旧民主党・民進党が分裂して以降、両党の支持層の選好が乖離し始め、2019年統一地方選、2020年京都市長選、さらには間に挟んだ2019年参院選（京都府選挙区）という国政選挙にも影響を及ぼしているということである。京都市長選挙では国民民主党の支持層と維新の支持層がともに京都党前代表の村山候補に投票するといった傾向が見られ、両党支持層の投票行動が近いことが明らかとなった。立憲民主党に合流せずに国民民主党に残ることとなる国民民主党重鎮の前原誠司が、2020年7月に維新との勉強会を始めていたのは示唆的である⁴²。京都府議選京都市伏見区選挙区に象徴的に見られた様な地方の一政治風景が、国政にも影響を及ぼしていることを示唆する。また、複数人を改選する参院選の選挙区における野党間の競合を考えると、本稿の分析対象は京都であるが、他の地域でも同じ様な状況が見られていそうである。

第二に、2015年の統一地方選で京都に初参戦した維新は大阪や神戸ほどの伸びが見られていないが、背景の一つに京都党の存在がありそうだということである。大阪で維新が行っているような政治塾を通じた人材の育成や獲得といった手法を京都党が採用していることもあり、それは鶴谷（2020, 157）が言うように市議選における両党公認候補の「つぶし合い」と表現できなくもないが、維新の支持層と自己認識している有権者の一部が市議選では京都党の候補者に投票しているのである。こうした点も、地方政治と国政の連関についての一般化を考える上で重要な視点を与え得る。

振り返ると、2011年統一地方選における各地域での変化は2012年の「政権奪還」選挙の前触れになった（白鳥編 2013, i）。2019年統一地方選については何が言えるのか、2021年秋までに確実に行われる衆院選への影響があるのか、各地域の地殻変動に関する分析の集積が必要となってこよう。

注

- ¹ 単一事例に基づく「決定的事例研究」という手法の効果については、久米（2013）の第10章が詳しい。真淵（1994）もその一例として取り上げられている。
- ² 但し、増減はいずれも選挙前に比べて1人の変化であった（自民28 共産12 国民5 公明5 立憲2 維新2 無所属6）。また、維新について、選挙前からは1議席増になっているが、前回当選者が2人であり、内1人が政務活動費の不適切な使用をめぐって、党员資格を停止され、今回立候補しなかったことを考えると厳密には前回と同じという結果であった。市会の当選者は、自21 共18 公10 京都党5 国4 維4 立3 無2。京都党の代表の村山が2020年京都市長選に立候補するために議員辞職したが、2019年統一地方選時に立憲民主党から初当選した市議一人が京都党に入党しているので、京都党は5のままである。
- ³ 2017年総選挙で希望の党で比例復活当選した井上一徳衆議院議員、2017年総選挙後に京都府第5区総支部長に就任した立憲民主党の山本和嘉子衆議院議員は含めていない数である。他党については、自民党が衆議院議員6人+参議院議員2人、共産党が衆議院議員1人+参議院議員1人等となっている。
- ⁴ 共産党が市政与党として臨んだ1981年京都市長選は、今川正彦候補と新自由クラブの元衆議院議員である加地和候補の一騎打ちとなった。加地は当選した今川候補に肉薄し、次点となった。加地は1985年京都市長選にも立候補したが、共産党推薦の湯浅晃に抜かれて、第三位となっている。当時の新自由クラブは市会に多くて1議席しか有していなかった。主要政党と京都市長の関係については、芦立（2012, 466）参照。
- ⁵ 『朝日新聞』1996年2月26日朝刊、1頁。2020年市長選で「観光公害」問題といった地方での政策が「大きな争点の一つとなった」ことと対照的である（『毎日新聞』2020年2月4日朝刊、京都18頁）。
- ⁶ 当選した門川大作が210,640票、次点の福山和人が161,618票、三位の村山祥栄は94,859票であり、門川と福山の差は5万票近くあったが、門川の得票率は45%余りに留まった（『朝日新聞』2020年2月4日朝刊、京都23頁）。
- ⁷ 左京区は市議時代に村山が選挙区としていたが、共産党の強い地域でもあり、2019年参院選でも共産党候補が最も自民党候補に肉薄した行政区であった（1107票差）。
- ⁸ 『朝日新聞』2019年7月23日朝刊、京都府28頁。
- ⁹ 『朝日新聞』2020年2月4日朝刊、京都23頁。
- ¹⁰ 『朝日新聞』2019年4月4日朝刊、京都21頁。
- ¹¹ 2015年選挙では維新の新人候補が当選し、民主党現職が落選していた。
- ¹² 『朝日新聞』2019年4月4日朝刊、京都21頁。「立憲 VS. 国民、党勢占う 激戦区ルポ、府議選・伏見区」という見出しが内容を表している。
- ¹³ 同上。
- ¹⁴ 同上。
- ¹⁵ 同上。
- ¹⁶ しまうち研事務所（2018）『シマケン熱誠通信 第10号（左京区版）』p.2。
- ¹⁷ 『朝日新聞』2019年4月28日朝刊、京都17頁。
- ¹⁸ 『産経新聞』Web版2019年4月8日21:19（<https://www.sankei.com/politics/news/190408/pl1904080077-n1.html>。2020年10月28日閲覧）。もっとも国民民主党の地方議員の中には無所属候補として立候補・当選した議員も少なくないので、国民民主党議員の減少幅は報じられるよりは小さいと言える。また、京都では府会議員選挙でも市会議員選挙でも国民民主党が立憲民主党を上回った。
- ¹⁹ 前原誠司事務所（2018）『Ever』Vol.37, p.2。

- ²⁰ その他の投票先としては、自民党 8 名、共産党 3 名、公明党 4 名、京都党 6 名、無所属候補 1 名で、無回答が 6 名存在した。
- ²¹ 京都党の候補に投票したという回答者が 4 名（10.8%）存在した。民主党と同じく 9 選挙区での選挙戦となった公明党について見ると、支持層 23 名中 21 名（91.3%）もが同党の候補者に投票したと回答しており、民主党と対照的な結果となっている。
- ²² 2019 年参議院選挙京都府選挙区については、別稿で分析する予定であるので、本稿ではほぼ割愛する。
- ²³ 『朝日新聞』2019 年 4 月 28 日朝刊、京都 17 頁。
- ²⁴ 同上。
- ²⁵ 『朝日新聞』2019 年 1 月 28 日朝刊、京都 25 頁。
- ²⁶ 『朝日新聞』2019 年 4 月 28 日朝刊、京都 17 頁。
- ²⁷ 『朝日新聞』2019 年 1 月 28 日朝刊、京都 25 頁。
- ²⁸ 『朝日新聞』2019 年 7 月 23 日朝刊、京都府 28 頁。
- ²⁹ もっとも、立憲民主党支持層の歩留まり率も、3 年前に民進党候補であった福山の歩留まり率である 94%には 10 ポイント余り及んでいない（『朝日新聞』2016 年 7 月 12 日朝刊、京都府 30 頁）。
- ³⁰ 『朝日新聞』2020 年 2 月 4 日朝刊、京都 23 頁。
- ³¹ 『毎日新聞』2020 年 2 月 4 日朝刊、京都 18 頁。
- ³² 京都新聞社の情勢分析でも福山候補は「立民と社民の支持層には食い込みを見せている」と分析されている。『京都新聞』2020 年 1 月 27 日 17:00 付 Web 版（20 年 3 月 10 日閲覧）。
- ³³ 同上の京都新聞社の調査で「門川候補は自民、公明支持層を手堅く固めたが、立民、国民支持層への浸透がやや弱い」と分析されている。
- ³⁴ 『毎日新聞』2020 年 2 月 4 日朝刊、京都 18 頁。前述の京都新聞社の情勢分析でも村山は「国民と維新支持層に一定浸透している」と評価されている。
- ³⁵ 2019 年統一地方選における維新の伸び悩みは関西以外で更に顕著であった。2015 年の統一地方選では日本維新の会が「関東出身の国会議員らも取り込んだ『維新の党』として臨み、千葉、神奈川、愛知など関西以外の 5 県で 11 議席を獲得していた」が、2019 年の統一地方選では関西以外の道府県議会選挙では一人も当選者を出せなかった。「日本維新の幹部には関東の落選者から『まったく風が吹かなかった』との連絡があった」とのことである（『朝日新聞』2019 年 4 月 12 日朝刊、4 頁）。
- ³⁶ 2019 年市議選に関する調査では、投票を行ったという維新支持層自体が 2015 年の 38 名から 20 名にまで減少しているので、単純比較はできないものの、2 名（10%）が京都党の候補に投票している（京都市選挙管理委員会編 2020, 141）。
- ³⁷ 『朝日新聞』2015 年 12 月 26 日朝刊、京都 25 頁。
- ³⁸ 『朝日新聞』2020 年 2 月 4 日朝刊、京都 23 頁。
- ³⁹ 『毎日新聞』2020 年 2 月 4 日朝刊、京都 18 頁。
- ⁴⁰ 2011 年の調査では最初の問いにも、「その他の政党（ ）」という選択肢があった。
- ⁴¹ 京都市、大阪市、神戸市の市民の政治意識を比較した木村（2020, 108）は、京都市では「自民と維新の『拒否されない』傾向が弱い」とする。
- ⁴² 『朝日新聞』2020 年 7 月 16 日朝刊、4 頁。国民民主党の泉健太が立憲民主党に移った一方で、前原誠司が国民民主党に残留したため、国民民主党に在籍した京都の地方議員 25 名は行き先を決めかねて態度を決めかねている（『朝日新聞』2020 年 9 月 16 日朝刊、京都 23 頁）。「国会議員の後援会員を選挙の基盤に置いた京都市議会議員は、当選する自己努力が十分ではなく、落選の憂き目を見る」可能性があるという鶴谷（2020, 155）の指摘と関係があるのかも知れない。

参考文献

- 芦立秀朗 (2012) 「京都市における意思決定 - 非日常的決定の典型と逸脱 -」『産大法学』第 45 卷第 3・4 号, pp. 461 - 486.
- 芦立秀朗 (2016) 「地方議会改革と議会基本条例: 自治基本条例との関係から」『京都産業大学 世界問題研究所紀要』第 31 卷, pp. 141 - 154.
- 芦立秀朗 (2020) 「地域政党のリクルートメント - 京都党と京都維新の会を例として -」『産大法学』第 53 卷第 3・4 号, pp. 303 - 318.
- 木村高広 (2020) 「第 4 章 京都市民の政治意識」佐藤満編『京都市政治の分析』東京: 慈学社出版 (pp.94-121)
- 京都市選挙管理委員会編 (2012) 『京都市民の投票行動—京都市議会議員一般選挙 (平成 23 年 4 月 10 日執行) を素材として—』京都: 京都市選挙管理委員会
- 京都市選挙管理委員会編 (2016) 『京都市民の投票行動—京都市議会議員一般選挙 (平成 27 年 4 月 12 日執行) を素材として—』京都: 京都市選挙管理委員会
- 京都市選挙管理委員会編 (2020) 『京都市民の投票行動—京都市議会議員一般選挙 (平成 31 年 4 月 7 日執行) を素材として—』京都: 京都市選挙管理委員会
- 久保谷政義 (2016) 『「一強多弱」政党制の分析—得票の動きからみる過去・現在—』東京: 三和書籍
- 久米郁男 (2013) 『原因を推論する—政治分析方法論のすゝめ』東京: 有斐閣
- 白鳥浩編著 (2013) 『統一地方選挙の政治学: 2011 年東日本大震災と地域政党の挑戦』京都: ミネルヴァ書房
- 白鳥浩編著 (2016) 『2012 年衆院選 政権奪還選挙: 民主党はなぜ敗れたのか』京都: ミネルヴァ書房
- 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 (2008) 『比較政治制度論』東京: 有斐閣
- 鶴谷将彦 (2020) 「第 5 章 京都市の選挙と政党」佐藤満編『京都市政治の分析』東京: 慈学社出版 (pp.122-158)
- 真淵勝 (1994) 『大蔵省統制の政治経済学』東京: 中央公論社
- 真淵勝 (2015) 『風格の地方都市』東京: 慈学社出版
- 吉田健一・木村高宏・佐藤満 (2007) 「第 2 章 政治的配置」村上弘・田尾雅夫・佐藤満編著『京都市政公共経営と政策研究』京都: 法律文化社 (pp.43-70)